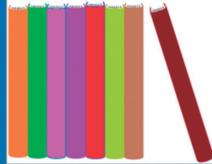


# 大人が絵本を 第95回 絵本の



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子\*  
小児歯科医師 濱野 良彦\*\*

\* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)  
\*\* 医療法人元気が湧く 理事フアウンダー

## 戦争が町にやってくる

ウクライナで2015年に発行された一冊の絵本が、2022年6月3日、『戦争が町にやってくる』の邦題で発売されました。ロシアがウクライナの首都キーウにミサイル攻撃をはじめた日から、およそ100日後のことです。

『戦争が町にやってくる』  
ロマナ・ロマニーシン、  
アンドリー・レシヴ作  
金原瑞人 訳  
(ブロンズ新社)



原題『Війна, що змінила Рондо』は、2014年に勃発した、ロシアのクリミア侵攻とウクライナ東部の戦争をきっかけに、ウクライナの絵本作家が「この国で何が起きているのか」「戦争とは何か」を子どもたちにわかりやすく伝えようと制作したものです。作者は、ロマナ・ロマニーシン氏とアンドリー・レシヴ氏で、ウクライナ西部のリビウを拠点に活動する夫婦作家です。日本語翻訳が発売された6月3日現在もリビウで暮らし、攻撃があった際にはシェルターに避難する生活を続けているといます<sup>1)</sup>。

これまで14の言語に翻訳され、国境を越えて「戦争と平和」について提起してきた本作が日本にも届けられたのです。日本の出版社は、沖縄の安里有生さん作詩『へいわってすてきだね』を絵本化したブロンズ新社で、ロシアがウクライナに侵攻したことを受けて「平和を考える絵本」として、海外児童書翻訳家の第一人者である金原瑞人氏の訳で刊行されました。

原書が刊行された2015年同年には、優れたグラフィックデザイン・ブックデザインの児童書に贈ら

れる「ポーロニャ国際絵本原画展 ラガッツィ賞」を受賞した、国際的評価を受けた芸術作品でもあります。

## 松居 直氏の長女を知っていますか？

ウクライナへ侵攻を続けているロシアの絵本文化は、その長い歴史上にわずか10年の黄金期を残すばかりなのですが、その10年で創作された作品は、「ロシア・アヴァンギャルド」と呼ばれる、同時代に他国の絵本では類をみない自由奔放な表現の芸術なのです<sup>2)</sup>。

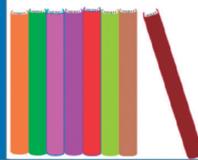
アヴァンギャルドを知らなくても、ロシアといえば、『おおきなかぶ』は誰しもになじみのある昔話でしょう。もっとも普及している福音館版絵本は、編集職人・松居 直氏に手がけられ、表現、画、リズム、構成、体裁すべてが「絵本」の真骨頂を示すものです。

日本において絵本の世界を開拓した松居 直氏を父にもつのは、「わにわに」シリーズ(福音館書店)で人気の絵本作家・小風さち氏です。さち少女と松居直親子に起きた不思議な縁は、スーパースター誕生を招くのです。さち少女が小学生のとき図画工作の先生が安野光雅氏で、図工の授業を参観した松居氏が、後日小学校を訪問して安野氏をスカウトした逸話を小風氏が披露しています<sup>3)</sup>。

また、お父様との忘れられない一冊を、父再話の『だいくとおにろく』(福音館書店)とし、渾身の力で読む声が怖かったけれど、わくわくしながら待ち構えていた幼少期を振り返っています。そして、もうひとつ残っている幼少期の記憶に、福音館書店の寮で暮らしていたとき、絵本を読んでもくれた人たちのさまざまな声がお話の面白さと一緒にあると述べています。言葉が肉声で子どもの心に入っていくから、物書きになっていくのでしょうか、とご自身で

# 手にするときは！

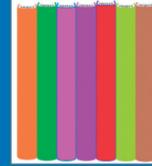
## 世界の親子鷹



企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)



分析されているのです<sup>3)</sup>。「ずるずり ずるずり」。「わにわに」の軽妙な音が肉声で心に入ってきた子どもが、次世代の絵本作家となるのでしょうか。

### 親子で共作、はたまた夫妻で共作

編集職人・松居 直氏が海外の横型絵本にならって、横書き・横型絵本を初めて手がけた『とらっく とらっく とらっく』(福音館書店)の作者・渡辺茂男氏のご子息も絵本作家になりました。日本でも人気となった『としょかんねずみ』シリーズを翻訳した渡辺鉄太氏です。

『としょかんねずみ』  
ダニエル・カーク 作  
わたなべつた 訳  
(瑞雲舎)



鉄太氏は、大学の外国語学部で専任講師を始めた頃から、創作だけでなく欧米の優れた児童文学や絵本の翻訳を行う父・茂男氏の翻訳の下訳や、著作の下調べなどを手伝い始めます<sup>4)</sup>。そんなアシスタント活動の中から、イギリスの児童文学『クマと仙人』(のら書店)を茂男氏との共訳で出版に至ったのが1991年のことです。そして、自身の作家活動を本格化するのです。

鉄太氏がテキストを書いた『もりのびょういん』(福音館書店)は、妻で画家の加藤チャコ氏との共作で、一家の暮らすメルボルンの広大な森が舞台です。

### 西村ご一家といえば…

『ゆうびんやさんのホネホネさん』シリーズ(福音館書店)の作者・にしむらあつこ氏は、絵本作家の両親をもつため、生まれたときから当たり前のよう

に絵本の中で育ってきた絵本作家です。

お父様は、『おふろやさん』『やこうれっしゃ』(共に福音館書店)を初期の作品にもつ西村繁男氏です。そして、お母様はいまきみち氏で、『なぞなぞな〜に』シリーズ(福音館書店)のように単独の創作活動も、『なあんくるん なあんくるん』(そうえん社)などテキストライターの仕事に絵を描くこともある作家です。

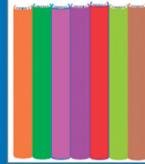
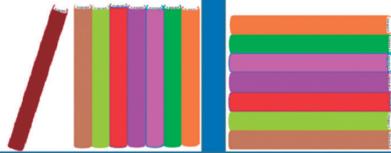
両親の制作現場で育った一人娘のにしむらあつこ氏は、就職で服飾関係に進もうとしますが、どこかちょっと違うことを感じ、親の職業に対する抵抗感があったものの、やがて「自分には絵本しかない」と感じるようになったと言います。そして絵本作家を目指すようになったとき、「家庭の中で育った絵本的なものが自分の中から出てきてしまう感じを覚えた」とも明かしています<sup>5)</sup>。

ともあれ、両親が絵本作家だからといって、受け継がれた才能と環境だけで絵本作家になれるものではありません。その裏の努力を強く感じたとき、今まで読んできた作品がまったく新しい物語になるのです。

### ルルちゃんが絵本作家に！

『ねないこだれだ』(福音館書店)、『おばけのてんぷら』(ポプラ社)の作者は、せなけいこ氏だと大人なら多くの方が答えられるでしょう。独特な貼り絵のタッチはお話にあたたかみを増し、読む者に癒しを与える作風が人気の一端です。それが、おばけのお話であってもなのです。

せなけいこ作品に登場する“ルルちゃん”のモデルはご令嬢である、くろだかおる氏です。本人談では、生まれてから6歳まで「いやだいやだのルルちゃん」としてワガママ放題だったらしく、それがそのまま「いやだいやだの絵本」シリーズになって



いるのです。

絵本の主人公にもなったルルちゃんは、自らも絵本作家となるのです。『うれしいとなきむし』（ひかりのくに）など「うれしい」シリーズのように、娘・くろだかおる氏がテキストライターで、母・せなけいこ氏が絵を描く親子共作の絵本が複数あります。せな氏との共作で創作活動をしてきたかおる氏は、2020年に他の画家と絵本を制作しました。竹上妙氏に絵をお願いした『おとうふ2ちょう』（ポプラ社）ですが、お母様とのエピソードから生まれたお話で、母娘の絆を感じます。

せな氏の夫で、ルルちゃんの父親は、落語家の六代目柳亭燕路（1991年没）です。ルルちゃんとして絵本に描かれた幼少時代から絵本作家になった現在まで、ちょっと変わった芸術家の家族の時間が流れていたことをエッセイ「ルルとかおる」に書き付けています<sup>6)</sup>。

せなけいこ作品の題材は、ルルちゃんのようにいつも身近なものでした。デビュー作となった『にんじん』は、ルルちゃんのお兄さんが小さい頃、ブルーナ氏の「うさこちゃん」シリーズがお気に入りだったことによるのです。当時、日本語訳はまだ4冊しか刊行されていなかったため、せな氏はわが子のために続きを作ってあげたのです。落語会ポスターの裏に紙を貼ってホッチキスで綴じた手作り絵本に福音館書店の編集者が興味をもったことから、『にんじん』に始まる「いやだいやだの絵本」（全4冊）が刊行されたのです<sup>7)</sup>。

絵本の奥付上には、「おかあさんのつくった絵本」としたキャッチコピーが記されています。母の愛です。



『にんじん』 『もじゃもじゃ』 『いやだいやだ』 『ねないこだれだ』

「いやだいやだの絵本」シリーズ せなけいこ 作・絵  
（福音館書店）

## 純と那生

笑いを追求し、動物たちに人間の心をもたせて擬人化する作風で、『おとうさんのえほん』や『おどります』（ともに絵本館）などのユーモア絵本を描くのは、高島 純氏です。「絵本をつくる上で大切にしているのは、気持ちのリアリティ」と言い、「でも、リアルに描きすぎると押しつけがましくなる。だから、動物の姿かたちを借りて描くことで、笑いに変える」と、動物を擬人化する理由を述べています<sup>8)</sup>。

純氏のご子息は、2003年に『ぼく・わたし』（絵本館）で絵本作家デビューした高島那生氏です。1978年生まれなのですが、父・純氏のデビュー作『だいくのせいさん』（ポプラ社）は1978年10月発行ですので、那生氏の誕生年に絵本作家デビューをしたこととなります。父・純氏のデビューは31歳の頃、息子・那生氏はお父様よりも若く、25歳で絵本作家となったのです。

純氏は、「作風が僕とは全然違う。それがいいなって思っています。何も教えていないから、僕も気持ちよく那生の作品を楽しませてもらってますよ」と温かい眼差しで見られています<sup>8)</sup>。一方、那生氏が絵本を作るにあたって決めたのは「父と似たような絵はやめようということ」「僕は僕なりの表現でやっていきたいと思った」とインタビューで答えています<sup>9)</sup>。

しかし、イラストは違っても笑いを追求するところに血を感じてしまうのです。那生氏の育った高島家は、きっと笑いの絶えない家庭だったと思います。

## 詩人と漫画家がタッグを組むと

絵本作家の親子たちをみてきましたが、もっともビッグなのは、詩人・工藤直子氏と、漫画家・松本大洋氏親子ではないでしょうか。

『てつがくのライオン』『ともだちは海のおい』『ともだちは緑のおい』（ともに理論社）、『のはらうた』（童話屋）など数々の賞を受賞している工藤直

子氏は子どもにも理解できる、それでいてしなやかな言葉を紡ぐ詩人で、童話作家です。

そんな偉大な詩人のことを「なおさん」と呼ぶのは、一人息子の松本大洋氏です。片や詩人、片や漫画家なのですが、2001年にはじめて親子共作で詩集絵本を出版したのです。工藤直子 詩、松本大洋 絵『こどものころにみた空は』(理論社)。「編集他みんなと一緒にこの詩画集をつくっているあいだじゅう、私は、気のあったことも同士、野山で遊んでいる気分でした」とコメントしているのは母のほうです<sup>10)</sup>。この子どもの感性を持ち続けているからこそ、大人と子どもの心に響くことばを紡げるのだと思います。

「いる」じゃん  
くどうなおこ作  
松本大洋 絵  
(スイッチパブリッシング)



この作家親子は2017年、実に16年ぶりに共作絵本『「いる」じゃん』を刊行しました。一流の詩人と一流の漫画家が描いた作品は、実に神々しく、ことばと絵が絡み合っただけで読む者の魂が揺さぶられるのです。

## 絵本の力

父と子がともに優れた能力を持っていることを「父子鷹(おやこだか)」と比喩することがあります。勝海舟の父・勝小吉を主人公にした子母沢寛著『父子鷹』に由来するもので、プロスポーツ界でよく耳にします。

渡辺茂男家と高島家は伝統的な「父子鷹」ですが、現代ではともに有能な親と子といっても、父と子の関係に限りませんので「親子鷹」と書くようになりました。

工藤直子&松本大洋親子は「母子鷹」ですし、親子で共作をするせなけいこ氏は「母娘鷹」でしょう。松居直家と西村繁男家は、「父娘鷹」になります。そうする

と、やはり「親子鷹」の文字がしっかりと合います。文字・表記も社会に応じて変わっていくものなのです。

ことばと絵が表現手段であり、ことばと絵にさまざまな体験、感情、感性を交えてメッセージを発信する絵本というメディアは、どれだけデジタル化が進んでもなくなることはない紙媒体であると信じています。

それを生み出すのは、ことばのセンスに秀でたテキストライターと、表現力・色彩センスに秀でたイラストレーターに他なりません。人間が創作した絵本を読んだ人間が、癒されたり、生きる力をもらったり、考え方をえたり、幸せになったりと、作家の知らない次元で新しい物語が紡がれるのですから、まったく不思議なものです。

私たちは、絵本作家に幸せをいただいているのです。同じ時代に、同じ地球上で生きている仲間として、ウクライナの絵本作家夫妻と、ウクライナの人々に幸せを届けたい、切なる願いです。



## 文献

- 1) NHK: ウクライナ 絵本作家夫婦の作品 翻訳され日本で出版へ, NHK NEWS WEB <https://www3.nhk.or.jp/2022/6/3>
- 2) 沼辺信一: ロシア・アヴァンギャルドと絵本, 絵本の事典, 朝倉書店, 東京, p.205-207, 2021.
- 3) NPO ブックススタート 編: 父の話をしましよか〜加古さんと松居さん〜鈴木万里・小風さち(子ども・社会を考えるシリーズ講演録), NPO ブックススタート, 東京, p.17-28, 2020.
- 4) 渡辺鉄太: おはなしの森, 渡辺鉄太HP <http://www.tetsuta-watanabe.com/> 2015/9/29更新
- 5) 福音館書店 母の友編集部: 絵本作家のアトリエ(41)にしむらあつこさん, 母の友, (688), pp.40-47, 2010.
- 6) くらだかおる: ルルとかおる 幼少期編, ポプラ社子どもの本編集部note [https://note.com/poplar\\_jidousho/m/mce09dc9cf54a](https://note.com/poplar_jidousho/m/mce09dc9cf54a)
- 7) 福音館書店 母の友編集部: 絵本作家のアトリエ2, 福音館書店, 東京, p.145-157, 2013.
- 8) KUMON: ミーテカフェインタビュー vol.68 絵本作家高島 純さん, mitete [ミーテ] HP <https://mi-te.kumon.ne.jp>
- 9) KUMON: ミーテカフェインタビュー vol.73 絵本作家高島那生さん, mitete [ミーテ] HP <https://mi-te.kumon.ne.jp>
- 10) 工藤直子: こどものころにみた空は, 理論社, 東京, p.90-91, 2001.